



誰もがつながりあって
安心して暮らせる まち 上尾



No. **162**
令和2年(2020)
4月1日号

あげお社協だより

社協法人化40周年記念 **第29回地域福祉を考える集い**



『人生100年時代の到来！
ともに支え合い、
元気に生きる
共生社会』

大勢の方々にご来場をいただき、
ありがとうございました。

社協だより162号の内容

- 社協法人化40周年記念『第29回地域福祉を考える集い』… P 2～3
- 「社会福祉協議会(社協)の活動と住民主体の理念」…………… P 4～5
思いや気づきを形に
- 平成31年度 共同募金運動のお礼とご報告…………… P 6
- 手話通訳者派遣事業について
善意銀行ボランティア基金のお礼とご報告…………… P 7
- 平成31年度 会員会費のお礼とご報告
- お知らせ掲示板…………… P 8

編集・発行人

社会福祉法人

上尾市社会福祉協議会

会長 畠山 稔

〒362-0011 上尾市大字平塚724番地
上尾市総合福祉センター内

TEL **048-773-7155**

FAX **048-772-8647**

<http://www.ageo-shakyo.or.jp/>



ホームページ

この社協だよりは、共同募金配分金を活用し発行しています。

人生100年時代の到来！

ともに支え合い、元気に生きる共生社会

令和2年2月1日(土)上尾市文化センターに於いて、社協法人化40周年記念『第29回地域福祉を考える集い』を開催しました。第1部では平成31年度の感謝状贈呈式及び小中学生作文コンクール表彰式が行われ、第2部ではシンポジウムを開催しました。当日は、多くの地域関係者をはじめ、地域包括支援センター、行政関係者など541人が参加しました。

各地域では、福祉に関する住民懇談会の場で、ともに支え合う互助のあり方について活発に意見交換が行われています。本シンポジウムでは、基調講演及び地域における実践事例を通じて、「人生100年」と言われる長寿社会において、豊かな生活を送るために、一人ひとりが取り組むべきことは何かについて、皆さんと一緒に考える機会となりました。

◆近所福祉クリエイター 酒井 保 氏



酒井氏による基調講演は以下のとおりです。

あと5年！ 2025年からの問題

2025年問題は、「2025年から始まる問題」。団塊の世代が一齐に後期高齢者となる時から40年、50年と続いていく問題とすれば、これは、今生まれた子どもたちにかかわる問題となります。だからこそ、今我々にできることを考えていく必要があります。

「社会参加」が健康寿命のカギとなる

今、実際に100歳代の人口が増えています。100歳時代に向けて、今我々にできることとして「自分自身が健康でいること」「地域のつながりを強くすること」が挙げられます。この二つは密接に関係していて、健康で長生きするために必要なことは「つながり(社会参加)」であり、役割をもって社会参加している人がうつ病になる割合は、そうでない人の7分の1という研究結果も出ています。例えば、地域のサロン活動。単に参加しているのは「社会性」、しかしそこに「役割」が加わることで「社会参加」となります。お客さま扱いすることで、当事者の「できること」を奪ってしま

たり、健康寿命を縮めているということがあってもいけません。

本来の「支え合い」の意味を考える

また、とかく誰かを「支える」ということを「支え合い」と思ってしまうがちですが、いずれは誰もが「支えられる」側になります。しかしながら、「助けて」と言える人は、全体の5%ほどしかないとの研究結果もあります。もうそろそろ「助けられる」「支援を受け入れる」ということを、我々は学んでいく必要があるのではないのでしょうか。

酒井氏は、講演を通じて、普段の暮らしの中で、役割をもちながら社会参加することが、健康寿命を延ばしていくことになり、そして「助けて」と言えるようなつながりが、本当の意味での「支え合い」の基盤だと力強く伝えてくれました。

また、災害という突発的な事態においては、「顔の見える関係」が、自発的に他者を思う気持ちの発露として、支え合う行動の要であると結んでいたできました。

「2025年問題」とは



2025年は後期高齢者(75歳以上)が急増するターニングポイントです。「2025年問題」とは、戦後すぐの第一次ベビーブーム(1947年～1949年)の時に生まれた、いわゆる「団塊の世代」が後期高齢者(75歳の年齢に達し、医療や介護などの社会保障費の急増が懸念される問題)を指します。

事例 報告

台風19号の災害で感じた 『支え合う』とは

昨年10月の台風19号による災害について、被災した際の上宿区の状況や被災者支援を通じた思いを報告していただきました。

上宿の災害状況と支援活動



平方地区上宿事務区
区長代理 石倉 尊穂氏

上宿区は、約30名の方が、荒川の増水により自宅が浸水し、避難所での生活となりました。

区公民館を避難所として開放し、被災者の食事作りをしたり、生活道路の整備などを行いました。

このような災害は、区住民も初めてのことで、何をしたらよいのかと戸惑いがありました。様々な方々の支援の力をいただきました。

区内では、自警消防団や自主防災会給食給水班、地元企業や地域住民による支援の他、被災者同士が助け合っている姿も見受けられました。地区外からは、平方地区の関係団体や災害ボランティアで駆けつけてくれた方々、行政機関や社協災害ボランティアセンターなど、多くの方の支援と連携で「一人ひとりの被災者を支援する」活動を行うことができました。皆さんの力により、10月31日には、区としての支援活動を終えることができ、本当に助かりました。

災害を通して感じた「支え合う」ということ



平方地区上宿事務区
区長 今川 武夫氏

私事ですが、自宅が浸水し、救助されることとなりました。私を助けてくれたのは、普段の何気ない暮らしの中で、お付き合いをしているご近所の方でした。また、被災された方のために、避難所での食事作りや差し入れなど、「こんなことしかできないんだけど」と言っていて、住民の方々が様々な形で支援をいただきました。

私は、今回の災害で被災し、助けられる側と、支援をする側の両者の立場を経験しました。

災害は、当たり前と思っていた生活が一変し、できなくなります。人生100年時代と言われる昨今も同様に、普段の暮らしができなくなる前にこそ、顔見知りであること、つまり人と人の関係が大切であると思えます。

もし、今回の災害のように、周囲の助けが必要となったときには、「助けてもらうこと」。そして、自分が元気になった時には、「助ける側になること」。その二つが合わされることが「支え合う」ということだと思えました。

住民一人ひとりの生活、地域の行事や活動など、私たちが、普段の何気なく生活している中で、培われた関係や経験などが、災害支援の大きな力になるということを感じました。



参加者の声 多くの反響をいただきました!

自分が困った時に、「助けろ」と言えない自分がいることに気づいた。周囲の人に助けを求めることができ、関係を作っていくことが大切だと思った。

今後、長い人生の中で、この講演で感じたことを忘れずに生活していきたいです。心が豊かになるご講演ありがとうございました。胸が熱くなりました。【20代女性】

健康に老いていくには社会性が大切なんですね。「なるほど」と思いました。



人生100年時代を健康で過ごすために、今から何をしたらいいかを考えるきっかけになりました。

たくさんの方のご来場、誠にありがとうございました。

「社会福祉協議会(社協)の活動と住民主体の理念」

思いや気づきを形に



「地域が必要とする職員は、現場において私たちと共に汗をかく人だ」と、地域関係者からの声が社協に届けられます。まさに正鵠を射た言葉だと受け止めています。

社協の基本的な性格

新・社会福祉協議会基本要項では、次の四つの性格があると示されています。

① 地域における住民組織と公私の社会福祉事業関係者により組織される。

② 住民主体の理念に基づき、地域の福祉問題に取り組み、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現を目指す。

③ 住民の福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整、事業の企画・実施を行う。

④ 市町村、都道府県・指定都市、全国を結ぶ公共性と自主性を有する民間組織である。

その中で特に、②の「住民主体」という理念を長年にわたり大切にしてきました。つまり、住民にとって

の地域福祉とは、極めて自治活動に近く、押し付けられるものや与えられるものではないという考え方をしてきたということです。

支部社協における

「地域福祉懇談会」

上尾市における住民福祉活動の特徴は、市内を13の地区に分けた「支部社協」が設立されていることです。

そして、各支部社協では、平成18年度から各地域事情に沿ったテーマのもと、「地域福祉懇談会」が開催

され、福祉活動への関心を高めてきました。この懇談会では、行政・専門機関や制度の不備についての指摘もあります。住民が専門家に任せずに、自らが行動をとることの大切さに気付く場となっています。

住民が取り組む福祉活動とは

行政・専門機関は、中重度者や困難なケースの問題を解決するため、今日では、専門的知識を持った多職種の専門家が協働し、改善あるいは悪化の予測を判定しながらチームを組み、アプローチします。

一方、住民が得意とする活動は、福祉的な課題をもつ方の発見や予防の取り組みです。代表的な活動は、見守りや介護予防の活動等があげられます。また、近所付き合いが希薄となる中、「孤立」に視点を当てた様々な住民活動は、私たちが目指す真のぬくもりのある地域づくりにつながっています。



住民自らの思いを形に

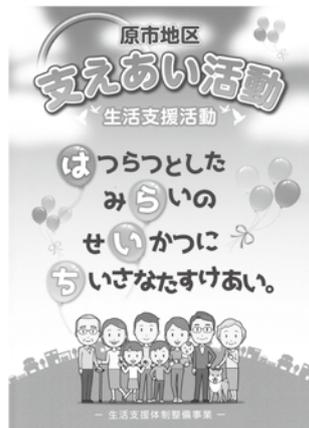
地域での福祉は「あいさつに始まりあいさつで終わる」と伺います。上尾においても単独世帯が多くなる中、一週間近く会話も無く、外出の意欲を失い、引きこもりがちになる方もいらっしゃいます。

しかしながら、地域において豊かなコミュニケーションをとることを、法律や制度に定め、行政が指導するということは、考えにくく実効性は期待できません。「孤立」や「疎遠」という福祉課題は、集う場を増やし、訪問する方を増やす工夫をしながら、「声をかけ合い、安否を確認し合うことは地域での暮らしに欠かせない」という住民自身の内発的な行動として、「思いや気づき」がとても重要です。

社協は、そのような住民の「思いや気づき」に働きかけ、形にしていく団体として、「皆さんと汗をかきたい」と願っております。



「原市地区 支えあい活動」 (生活支援活動)」



「原市地区支えあい活動」冊子

原市支部では、「元気な高齢者が支援の必要な高齢者を支える仕組みを、今の時代に作り上げよう」という

ことで、事務区ごとに顔の見える範囲での助け合いの仕組みづくりを始めました。支部で地域の声を集め、区長会に提案し、地域福祉懇談会でもテーマとして、支部関係者間での協議を重ねてきました。「出来ることから、出来る範囲で」という支部長の



庭木の剪定の様子

け声のもと、各事務区で、やりやすい形での活動を模索し、仕組み作りに取り組みでいます。そして、目標

だった「令和2年度いっぱい全11事務区で立ち上げよう」をすでに達成することができました。庭の手入れ等の身近な困りごとに対して、ご近所同士の助け合いを、気軽に頼み頼まれる仕組みとしています。今後ちよつとした困り事が出てきた際に対応できるように、地域の皆さんが協力し、少しずつ活動を拡げていきます。そして、現在取り組んでいる活動をまとめた冊子を作成しました。



ちいさなたすけあい運動のボランティアのみなさん（原市第七区）

上尾ボランティアセンター (ボランティア養成講座)

ボランティアセンターでは、ボランティア活動をより身近に感じてもらえるよう、趣味を生かしたボランティア養成講座を実施しています。昨年の秋に行った民踊（みんよう）の講座では、座学、実技の他、施設でのボランティア体験も行いました。



初めてのボランティア活動は、ウエルハース内デイサービスセンター向山で行いました。

体験後は、皆さんいきいきとした

表情で「楽しかった」と口々に話されています。その後、講座修了者で改めて座談会を行う中で、こんなに喜ばれる活動なのであれば、継続していこうとグループを結成することになりました。

「民踊は見るだけではなく、一緒に楽しむもの。どうしたら、みんなに楽しんでもらえるのか考えるのも楽しい」と感想を伺いました。

ボランティア活動は「誰かの役に立ちたい」という気持ちから始まる活動ですが、活動者自身にとっても「楽しい」「勉強になる」「ありがとう」と言われてうれしい等々、心を豊かにする要素がたくさん詰まっています。



ボラ連カフェでの活動は、いつの間にか輪の輪が広がりました。

平成31年度 共同募金運動にご協力いただきありがとうございました

事務区長さまをはじめ、各種団体の皆さま、市民の皆さまにご支援、ご協力をいただき、共同募金運動を実施することができました。以下のとおり募金実績及び歳末たすけあい募金配分金事業についてご報告させていただきます。

募金実績額	25,579,634円
赤い羽根	15,943,555円
歳末たすけあい	9,636,079円

平成31年度赤い羽根共同募金実績

(令和2年2月29日現在)

地区名	実績(円)
上尾地区(計)	2,870,747
① 上尾東	1,258,369
② 上尾西	766,545
③ 上尾南	845,833
平方地区	596,685
原市地区	2,647,273
大石地区	2,649,895
① 大石東	2,045,924
② 大石西	603,971
上平地区	2,231,692
大谷地区	1,691,388
原市団地	73,317
尾山台団地	197,014
西上尾第一団地	265,756
西上尾第二団地	207,677
小計	13,431,444
法人募金・個人大口募金	932,911
街頭募金	298,584
学校募金	254,256
職域募金	1,026,360
合計	15,943,555

平成31年度歳末たすけあい募金実績

(令和2年2月29日現在)

地区名	実績(円)
上尾地区(計)	2,024,551
① 上尾東	919,098
② 上尾西	551,537
③ 上尾南	553,916
平方地区	359,084
原市地区	1,649,556
大石地区	1,813,718
① 大石東	1,250,066
② 大石西	563,652
上平地区	1,541,891
大谷地区	1,032,426
原市団地	62,085
尾山台団地	145,943
西上尾第一団地	193,928
西上尾第二団地	154,721
小計	8,977,903
法人募金	225,751
街頭募金	432,425
合計	9,636,079

歳末 法人募金協力団体 (敬称略)
・上尾市仏教会 ・みやした幼稚園

共同募金運動にご協力いただいた方

(順不同・敬称略)

- 戸別募金：上尾市区長会連合会／事務区長
- 学校募金：児童・生徒／保護者／学校職員
- 職域募金：上尾市区長会連合会
上尾市民生委員・児童委員協議会連合会
学校職員／施設職員／団体職員
- 街頭募金：ボーイスカウト上尾市連絡協議会
ガールスカウト上尾地区協議会
上尾市ボランティア連絡会
立正佼成会上尾教会
上尾市いきいきクラブ連合会
輪太鼓虹の会
上尾市民生委員・児童委員協議会連合会
西上尾第二団地自治会
学生ボランティア (聖学院大学、上尾市立南中学校)
- 法人募金・個人大口募金：個人協力者
上尾市内・外企業及び施設
- 募金箱設置場所：ラッキーボード／上尾市総合福祉センター

集まりました募金(赤い羽根)は、地域の福祉活動、福祉教育の推進障がい者への支援、児童福祉関係などに使われる予定です。



平成31年度歳末たすけあい募金 福祉事業報告

(収入の部)

事業名	金額(円)
戸別募金・街頭募金等	9,636,079
前年度(平成30年度)からの繰越	1,407,719
合計	11,043,798

(支出の部)

事業名	金額(円)
歳末商品券配布事業	3,001,000
低所得者世帯援護金事業	2,710,000
支部社協・ボランティア団体歳末事業	2,869,000
支会・県共募本部事務費	680,000
歳末商品券郵送料等	544,783
次年度(令和2年度)への繰越	1,239,015
合計	11,043,798

歳末福祉事業(クリスマス会)

「昨年(2019年)の12月15日(日)、日頃支えていただいている地域の皆さんをお招きしてボウリング大会を行いました。練習に取り組むいつものメンバーとはまた違った青年らしい姿を見ていただけたかと思います。「頑張れ〜」等の声を掛けていただき、メンバーもとても嬉しそうでした。」



輪太鼓虹の会

手話通訳者派遣事業について

聴覚に障がいのある方の家庭生活や日常生活におけるコミュニケーションを円滑にし、社会参加を推進するために手話通訳者を派遣しています。

手話通訳者は聴覚障がい者だけでなく、手話の分からない聞こえる人にとっても必要なものです。例えば、病院で医師が症状を把握して治療方針などを説明するため、学校では先生が子供の様子を保護者に伝えるためなどに利用されています。

コミュニケーションですから一方向ではなく、双方向で成り立つものです。



☎️お問合せ☎️ 上尾市手話通訳者派遣事務所 FAX/775-5587 TEL/773-7155 メールアドレス ageoshuwa@t.vodafone.ne.jp

善意銀行・ボランティア基金にご協力いただきありがとうございました。

お預かりいたしました寄付は、有効に活用させていただきます。◆令和元年12月1日～令和2年2月29日受付分（敬称略・順不同）

善意銀行（寄贈金）		
寄付者	寄付金（円）	寄付先
日本赤十字社 埼玉県有功会上尾市支会	300,000	上尾市社会福祉協議会
上尾遊技業組合	200,000	上尾市社会福祉協議会
旬魚・旬菜 ただ	50,000	上尾市社会福祉協議会
齋藤 君江	50,000	上尾市社会福祉協議会
上尾市役所56年度同期会	2,278	上尾市社会福祉協議会
ミント Eco Club	5,000	上尾市社会福祉協議会
上尾ライオンズクラブ 第4回チャリティカラオケ大会	50,000	上尾市社会福祉協議会
特別養護老人ホーム 菫きの里	19,329	上尾市社会福祉協議会
上尾市平成の会	1,514	上尾市社会福祉協議会
株式会社ベルク上尾東店	32,184	上尾市社会福祉協議会
株式会社ベルク上尾春日店	20,949	上尾市社会福祉協議会
ゆうなぎ	23,693	上尾市社会福祉協議会
富士見いきいきむつみ会	3,000	上尾市社会福祉協議会上尾西支部
いきいきクラブ原市八区さくら会	3,141	上尾市社会福祉協議会原市支部
戸崎ゴルフクラブ	12,600	上尾市社会福祉協議会大谷支部
松澤 春雄	50,000	上尾市社会福祉協議会大谷支部
匿名	20,000	上尾市社会福祉協議会大谷支部
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	10,000	平方地区上宿事務区
株式会社スパンコア	35,000	こども食堂とまと
株式会社スパンコア	25,000	子ども食堂でんでん虫
松澤 春雄	50,000	ピュア・スマイル

善意銀行（寄贈品）			
寄付者	寄贈品	寄付者	寄贈品
コンサートホール上尾	お菓子 大箱4個 小箱2個	紙芝居やぎさん一座	エプソン プロジェクター
上尾白ゆり会	タオル2,000枚	十連寺	お菓子 大2箱

ボランティア基金			
寄付者	寄付金（円）	寄付者	寄付金（円）
こより会	50,000	ボランティアグループ手芸の会	30,000

平成31年度 会員会費のお礼とご報告

上尾市社会福祉協議会の会員会費につきまして、事務区長さまをはじめ、市民の皆さまや各種団体の皆さまにご協力をいただき、誠にありがとうございました。

皆さまから集められた会費は、『誰もがつながりあって安心して暮らせるまち上尾』を実現するための地域福祉事業等にに使わせていただきます。

世帯・個人会員内訳

(令和2年2月29日現在)

地区名	件数(件)	金額(円)
上尾地区(計)	2,898	1,689,979
① 上尾東	1,210	713,479
② 上尾西	848	517,450
③ 上尾南	840	459,050
平方地区	887	505,500
原市地区	1,384	858,190
大石地区	2,698	1,537,105
① 大石東	1,621	925,600
② 大石西	1,077	611,505
上平地区	1,608	988,000
大谷地区	1,392	792,010
原市団地	180	141,000
尾山台団地	329	213,500
西上尾第一団地	258	197,901
西上尾第二団地	228	179,500
	11,862	7,102,685

合計金額 9,924,686円

- ・世帯・個人会員 7,102,685円 (11,862件)
- ・個人賛助会員 711,001円 (977件)
- ・特別団体・施設会員 2,111,000円 (318件)

社協会費はこのような事業に使われます。

- ☆13支部社協における地域交流事業 (サロン活動、介護予防教室、交流会など)
- ☆安心安全見守りネットワーク事業
- ☆福祉相談及び困窮者支援事業



ご協力ありがとうございました

令和2年度上尾市社会福祉協議会 常勤職員募集

募集職種 職種：社協事業全般
人数：若干名

採用年月日：令和2年7月1日

受験資格：昭和60年4月2日以降に生まれた方
※長期勤続によるキャリア形成を図るため、若年層のみの募集とします。

資格等：・看護師、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士のいずれかの資格をお持ちの方
・普通自動車免許（必須）

試験日：一次試験：令和2年5月17日（日）午前9時00分
会場：上尾市総合福祉センター（上尾市大字平塚724番地）

申込手続 提出書類：試験採用申込書（所定の用紙）
自己紹介書（所定の用紙）

申込方法：持参または郵送

受付場所：上尾市総合福祉センター内
上尾市社会福祉協議会 総務課

受付期間：令和2年4月8日（水）～5月8日（金）まで
※当日消印有効

◎詳しくは、「上尾市社会福祉協議会」ホームページより、「令和2年度上尾市社会福祉協議会職員採用試験案内」をご覧ください。

問い合わせ申し込み 総務課 総務係 Tel.048-773-7155 8:30～17:15 月～金曜日（祝日を除く）

令和2年度 善意銀行助成金のお知らせ

上尾市社会福祉協議会では、市民の皆さまより「社会福祉の向上のため」の善意のご寄付をお預かりしています。

1. 交通遺児の方への「入学・進級・卒業」の祝い金

(1)対象

交通事故により、親権者が死亡・重度後遺障害となった交通遺児と生活をともにしている保護者で、上尾市内に住所を有している方

*保護者が婚姻されたり、遺児を監護しなくなった場合は対象外となります。

(2)申請方法

以下の書類を社会福祉協議会へ持参または郵送

- A 所定の申請書（印鑑要）
*社会福祉協議会で配布またはHPよりダウンロード
- B 事故証明書または死亡診断書等の写し
- C 入学・進級・卒業を証明する書類
- D 住民票（家族全員が記載されたもの）
- E 保護者名義の通帳の写し



(3)受付期間

令和2年4月1日（水）～4月24日（金）
（土・日・祝日は除く）

2. 社会福祉向上のための事業助成

(1)対象

市内に活動の拠点を置いて福祉に関する活動を行う社会福祉法人、NPO法人、その他の任意団体

(2)対象事業

高齢者、障がい者、児童等の福祉向上につながる社会福祉事業
*団体の日常的な経費、定例化した事業については対象外

(3)助成金額

10万円以内 *審査があります。

(4)申請方法

以下の書類を社会福祉協議会へ持参

*審査のために詳細を確認させていただきますので、必ずご持参ください。

- A 所定の申請書（印鑑要）*社会福祉協議会で配布
- B 事業計画
- C 事業予算
- D 団体の概要のわかるもの

(5)受付期間

令和2年5月1日（金）～5月29日（金）（土・日・祝日は除く）

問い合わせ申し込み 〒362-0011 上尾市大字平塚724番地
上尾市総合福祉センター内 地域福祉課 ボランティア係 Tel. 048-773-7155



令和2年度 日本赤十字社募金にご協力をお願いいたします

日本赤十字社埼玉県支部上尾市地区（上尾社協が事務局）では、5月を赤十字運動月間として、各地区の自治会長・班長さんの協力を得ながら活動資金（寄付金）の協力依頼を行っています。

皆さまからお預かりした募金は、地震など大規模災害時の災害救援に関わる費用や、血液事業等人道的立場、地域社会に根ざした社会福祉事業、自分自身や家族を守る講習会などを実施するための資金として活用されます。

赤十字の趣旨・事業活動をご理解いただき、ご支援・ご協力をお願いいたします。 *募金の目安額は、一世帯220円です。

日本赤十字社埼玉県支部上尾市地区での活動

*上尾市内で火災等が発生した場合、被災された方に救援物資（布団、毛布、緊急セット）やお見舞金をお届けしています。

*皆さまのお住まいの地区にお伺いして救急法講習会等を開催し、多くの皆さまに「日本赤十字社」の活動をご理解いただけるように努めています。

